

世界無形遺産
【能楽】

2016年 冬の観能の夕べ

Evening Noh-Theater

～若き能楽師の清新な舞台～ 14時30分開演
(13時30分開場)

狂言
【施主】中島 恭介
Kyogen, Uozepou
Kousuke Nakajima, Shite

能
【シテ】佐野 弘宜
Noh, Yashima
Kouki Sano, Shite

魚説法
Ika Jōhō




狂言
【酔席】炭 光太郎
Kyogen, Suibaikeami
Koutarou Sumi, Shite

能
【シテ】藪 克徳
Noh, Yumiyawata
Katsunori Yabu, Shite

酔 薑
Suibaikeami

弓八幡
Yumi Yatsuha




1月30日【土】

1月23日【土】

狂言
【太郎冠者】中尾 史生
Kyogen, Shimizu
Akio Nakaao, Shite

能
【シテ】高橋 憲正
Noh, Fudatama
Norimasa Takahashi, Shite

清 水
Shimizu

春日龍神
Kasugaryūjinn




3月5日【土】

狂言
【昆布売】山田 謙一
Kyogen, Kobuuri
Joji Yamada, Shite

能
【シテ】木谷 哲也
Noh, Tamakazura
Tetsuya Kidani, Shite

玉 葛
Tamakazura

昆布売
Kobuuri




2月27日【土】

狂言
【主人】能村 祐丞
Kyogen, Furefuna
Yūjo Nomura, Shite

能
【シテ】佐野 玄宜
Noh, Fuji
Genki Sano, Shite

舟ふな
Funebuna

藤
Fuji




2月6日【土】

【会場・お問い合わせ】

石川県立能楽堂

TEL&FAX 076-264-2598 〒920-0935 金沢市石引 4-18-3

各公演 前売 1,000円 当日 1,200円 ※高校生以下 無料

【主催】いしかわの能楽鑑賞事業実行委員会

【チケットのお求め】石川県立能楽堂

石川県立音楽堂チケットボックス(076-232-8632)

香林坊大和プレイガイド (076-220-1332)

※駐車場は台数に限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
※満席の場合は、当日券を販売しない場合がございます。チケットはお早目にお買い求めください。



金沢能楽美術館 関連行事

★冬の観能の夕べ講座 2回 11:00~12:00

- ① 1月30日(土) 講師:佐野玄宜(宝生流能楽師シテ方) 解説:「八島」「藤」
- ② 2月27日(土) 講師:高橋憲正(宝生流能楽師シテ方) 解説:「玉葛」「春日龍神」

参加無料 ※要申込み・要観覧料

★新・古能面展VI 12月12日~1月31日 ★新収品展(仮) 2月6日~

お問合せ 金沢能楽美術館 TEL.076-220-2790

〒920-0962 金沢市広坂1丁目2-25 10:00~18:00(入館 17:30まで) 月曜休館(祝日の場合翌日休館)

1月23日「土」

14時30分開演

解説
佐々木香織
(石川工業高等専門学校准教授)

舞囃子

絃上

福岡 聡子

狂言

酢薑

炭 光太郎

能

弓八幡

藪 克徳

後宇多院の臣下が勅命により男山石清水八幡に参詣する。そこへ弓袋を携えた老若二人の参詣人が来合わせて、治まる御代と君を守る神を称え言祝ぐ。老人はさらに応神天皇を祭った男山八幡のいわれを述べ、自らを高良の神と名乗って消え失せる(中入)。やがて高良の神が今度は颯爽とした男体で現れて夜神楽に興じて舞い、八幡の神徳を称える。

1月30日「土」

14時30分開演

解説
杉山欣也
(金沢大学人間社会研究域教授)

舞囃子

氷室

葛野 りさ

狂言

魚説法

中島 恭介

能

八島

佐野 弘宜

旅の僧が八島の浦に着くと、日暮れとともに二人の漁師が現れる。僧は漁師の塩屋に宿を借りる。漁翁は都を懐かしみ、もてなしに源平合戦の有様を物語り、義経の名を暗示して暁の修羅の時を待て、と言いつつ消える(中入)。やがて僧の枕元に甲冑を帯した義経の幽霊が現れ、八島の戦の有様を語り、夜明けとともに消え去る。

2月6日「土」

14時30分開演

解説
佐々木香織
(石川工業高等専門学校准教授)

舞囃子

七騎落

松田 若子

狂言

舟ふな

能村 祐丞

能

藤

佐野 玄宜

北国の名所を巡る都の僧が越中多枯の浦に着くと、折しも藤の花が今を盛りと咲いている。僧が思わず古歌を口ずさむと、里の女が現れて名所にふさわしい古歌を詠むようたしなめる。女はやがて藤の花の精を名乗って松の陰に消え失せる(中入)。読経して花の跡をうらむ僧の前に、花の精が花の菩薩となって現れ舞の袖を翻すが、夜明けとともに消えて行く。

2月27日「土」

14時30分開演

解説
山内麻衣子
(金沢能楽美術館学芸員(主査))

舞囃子

唐船

渡邊 茂人

狂言

昆布売

山田 譲二

能

玉葛

木谷 哲也

旅の僧が初瀬に赴くと小舟に棹さし初瀬川を上る女に出会う。女は僧と共に御堂を拝した後、二本の杉に案内すると、「源氏物語」の玉葛の話をして聞かせ、自分こそその玉と名乗りさし、甲冑を頼んで消える(中入)。僧が甲冑の霊が現れ、恋の妄執の苦患から抜け出せぬ身であることを打ち明ける。

3月5日「土」

14時30分開演

解説
西村聡
(金沢大学人間社会研究域教授)

舞囃子

放下僧

島村 明宏

狂言

清水

中尾 史生

能

春日龍神

高橋 憲正

明恵法師が仏跡探訪のため入唐の暇乞いに春日明神に参詣すると、宮守の老人が現れ、明神の信頼厚い明恵が日本を去ることの非を説き、思いとどまるなら三笠の山に天竺を映し仏跡のすべてを見せる、と言いつつ消え去る(中入)。やがて八大竜王が現れ、神託のとおり春日の野山に金色に輝く仏の世界を顕し、猿沢池に立ち去る。

加賀宝生

金沢能楽会

五代藩主綱紀の時代より加賀藩では、能を愛好する藩主が続き幕末まで能役者を手厚く保護しました。

その一方で、細工所の職人たちにも能楽の一部を兼芸させ、教養を高めさせると同時に能の人材として育成し、また領民たちにも推奨しました。これにより、世に「加賀宝生」といわれるほどの能楽の盛んな土地がらとなりました。一時、幕藩体制の崩壊によって加賀宝生も衰退しましたが、佐野吉之助師の登場により、一九〇一年金沢能楽会が設立され、以来一〇〇年以上の長きに渡り、連綿と伝統を受け継ぎ現在にいたっています。

現在、石川県立能楽堂において定例能を催し、通算回数は一、一〇〇回以上に及んでいます。

「冬の観能の夕べ」の終了時間は午後4時30分頃です。
詳細は、金沢能楽会又は県立能楽堂のホームページをご覧ください。
金沢能楽会のHPではその他魅力的な公演の情報も掲載しています。